

成分名	アルファチオグリセリン
英名	α -Thioglycerol
CAS No.	96-27-5
収載公定書	薬添規 NF
A TOXNET DATABASE	https://chem.nlm.nih.gov/chemidplus/rn/96-27-5

投与経路	用途
静脈内注射	抗酸化剤
筋肉内注射	
皮下注射	

以下については該当文献なし

- 単回投与毒性
- 反復投与毒性
- 遺伝毒性
- 生殖発生毒性
- 局所刺激性

■ その他の毒性

免疫に対する作用

各種生物材料の表面成分に対する免疫反応を動物移植モデルを使って検討した。直径 1.2cm の PET ディスクを金コーティングし無菌化したうえで、種々のチオール基関連化合物を金表面に修飾した。このディスクをマウス(雄、Swiss-Webster)腹腔内に移植し、18 時間後に取り出した。メルカプトグリセロールあるいはメルカプトエタノールに由来する表面成分は好中球接着・単球/マクロファージ接着の蓄積など、強い免疫反応を誘発した。一方で、システイン使用の表面剤やグルタチオン修飾や金インプラントでは、わずかな免疫反応しか起きなかった。メルカプトグリセロール使用の表面剤への炎症細胞の蓄積は、あらかじめ補体を枯渇させたマウスではおきなかったことから、補体活性によることが明らかとなった。以上、表面剤に使用する成分によって補体が活性化され、免疫反応を引き起こすことが示唆された。¹⁾ (Liu, 1998)

■ ヒトにおける知見

該当文献なし

引用文献

1) Liu L., Complement activation and inflammation triggered by model biomaterial surfaces. J. Biomed. Mater. Res. 1998; 4: 333-340.